

障害者用PC/インターネット利用支援ソフトの 更新開発とオンライン提供・サポート

2020年10月

アイデア・フロント株式会社
内 田 齊

2020 Ideafront, Inc.

2019年度の助成をいただいで開発・提供をしました、障害者用PC/インターネット利用新ソフト「Pete10」についてご紹介します。

肢体不自由者支援ソフト「Pete」とは

- 2001年から提供している、肢体不自由者のPC利用を支援するソフトウェア。
- 日本語予測・PC操作予測により、オートスキャン操作でも効率よくPCを操作。



2020 Ideafont, Inc.

Peteは、2001年から主にオンラインで提供している、キーボードやマウス操作が困難な肢体不自由者のPC、ネット利用を支援するソフトウェアです。

オートスキャン操作をはじめさまざまな操作方式で利用でき、さらに日本語予測入力、PC操作予測入力によって、効率よくパソコンの操作やネットサーフィンを行うことができます。

Peteの特長

- 肢体不自由者のPC/インターネット利用支援ソフトとして、Peteは次のような特長を備えている。
 - ① 表示位置やレイアウトを自由に変更可能なスクリーンキーボード
 - ② 利用者の状態に合わせ、さまざまな操作方法で利用可能（マウスクリック、5キーによる手動スキャン、1キーによるオートスキャン）
 - ③ 日本語の単語予測、PC操作予測入力で操作負担を軽減（特にオートスキャンでも効率よくPC操作・入力ができる）
 - ④ WindowsのほとんどのアプリケーションソフトをPeteで操作可能
 - ⑤ オートスキャンに対応した専用ブラウザでネットサーフィンが可能

2020 Ideafont, Inc.

Peteというソフトウェアの特長をこちらにまとめました。

肢体不自由者のPC操作支援ソフトは、いくつかメジャーな製品がありますが、

- Peteは多様な操作方式に対応し利用者の状態に合わせて操作方法を選択し変更ができること
- Windowsのほとんどのアプリケーションの操作に対応していること

が大きな特長で、PCをヘビーに使い込みたい人や、もともとPCを仕事などで使っていた中途障害の方などに好まれる支援ソフトです。

Windows10環境での動作状況（2019年4月時点）

- Windows10では、一部の操作方法しか利用できず、またモダンUI/ストアアプリの操作・入力ができないという問題があった。
- 今回の改修で、表の×項目を○にすることを目指した。

	Windows7	Windows10
デスクトップアプリ※の操作・入力	○	○
ストアアプリ※の操作・入力	—	×
エクスプローラーの操作	○	○
スタートメニューの操作	○	×
マウスクリックでの利用	○	○
オートスキャンでの利用	○	×

※デスクトップアプリ:ワード、エクセル、アウトLOOK、IE、メディアプレイヤー等
 ※ストアアプリ:エッジ、フォト、カレンダー、電卓、メール等

2020 Ideafont, Inc.

しかし、従来のPetelは、Windows10で十分に機能しないという大きな問題がありました。

Windows10で発生していた問題をこの表にまとめました。

Windows10では、以前からのアプリケーションソフトとは仕様が異なる「ストアアプリ」が提供されていますが、Petelはストアアプリの操作ができませんでした。

例えば、Windows10の標準ブラウザであるエッジはPeteでは操作できませんでした。

また、同じ理由で、Windows10のスタートメニューもPeteからは操作できませんでした。

オフィスなど以前からあるアプリケーションソフトは操作できますが、オートスキャンの動作が不安定で、オートスキャンでの利用はかなり非効率になる状況でした。

改修開発の概要

- Peteからの操作信号を中継する常駐ソフトを置くことにより、Windows10環境との不整合を解消し、モダンUI/ストアアプリへの入力やオートスキャン操作を可能にした。

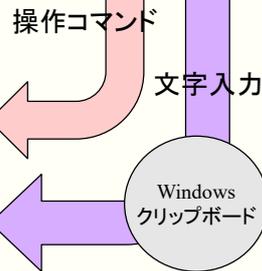
従来のPeteの方式



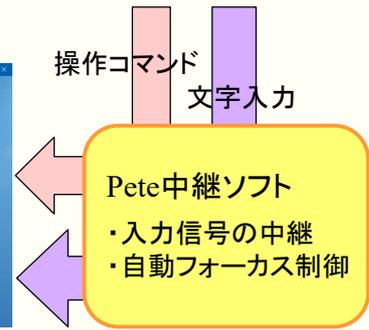
改修後の方式(予定)



操作対象アプリ



操作対象アプリ



※能動的なフォーカス制御は行わない

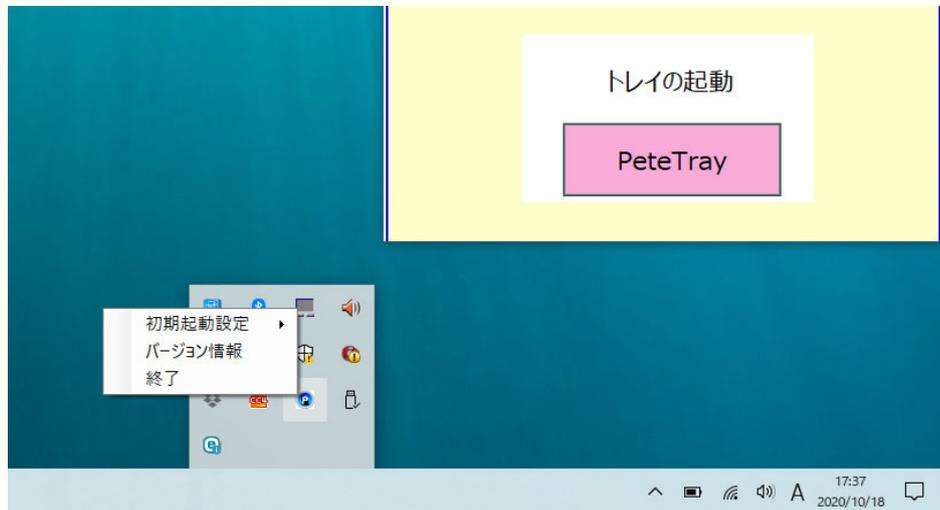
2020 Ideafront, Inc.

では、これをどう改善するかということですが、Windows10版のPete (Pete10) では、Peteからの入力信号を操作対象のOSやアプリ等に直接渡すのではなく、中継ソフトを経由して入力する形に変更しました。

中継ソフトは、別の支援ソフト製品であるRickey用に開発したものがああり、それを参考にして、より多機能な支援ソフトであるPete用の中継ソフトを開発しました。

常駐ソフト「Peteトレイ」の新規提供

- Pete10では、Windows10用の常駐アプリ「Peteトレイ」を新たに開発。
- これによって、ストアアプリ、スタートメニューなど、Windows8から追加された「モダンUI」系の要素が操作できるようになった。



2020 Ideafront, Inc.

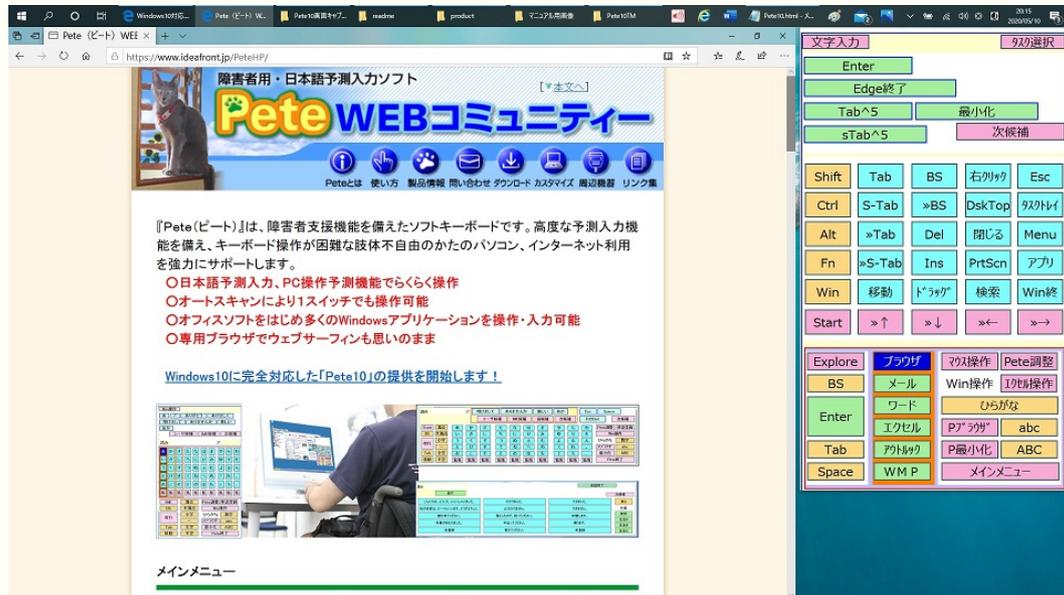
こちらが、その中継ソフト「Peteトレイ」をインストールした状態です。

Peteトレイは、いわゆる常駐ソフトで、バックグラウンドでPete10とOSやアプリケーションをつなぐ役割を果たします。

Pete10は、Peteトレイが起動していない状態でも動作しますが、ストアアプリやWindows10のスタートメニュー等の操作はPeteトレイが起動していないとできません。

Windows10ストアアプリへの対応

- Pete10では、従来のPeteが対応していなかった、Windows10ストアアプリの操作が可能に。(例: Edge、Mail、Photoなど)
- 下の画面は、Pete10でEdgeの操作をしているところ。



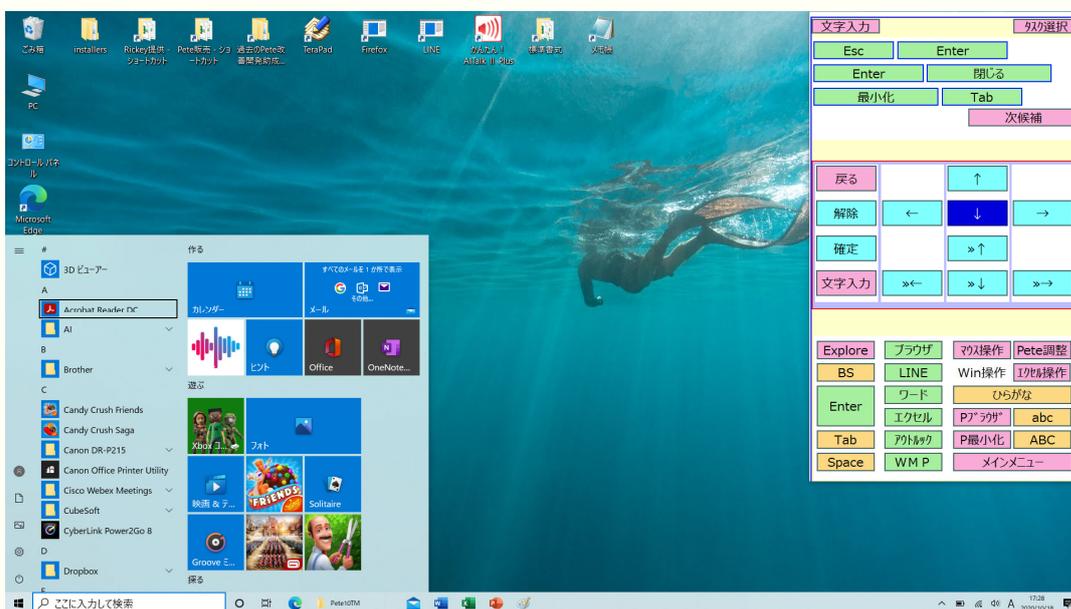
2020 Ideafont, Inc.

Peteトレイがバックグラウンドで動いている状態であれば、Pete10からストアアプリの操作が行えます。

代表的なものは、Windows10の標準ブラウザであるEdgeです。そのほかにも、Mail、Photo、Grooveミュージックなど、Windows10の代表的なプリインストールアプリが操作できるようになりました。

Windows10スタートメニューの操作

- 同様に、Windows10のスタートメニューもPete10から操作できるようになった。



2020 Ideafont, Inc.

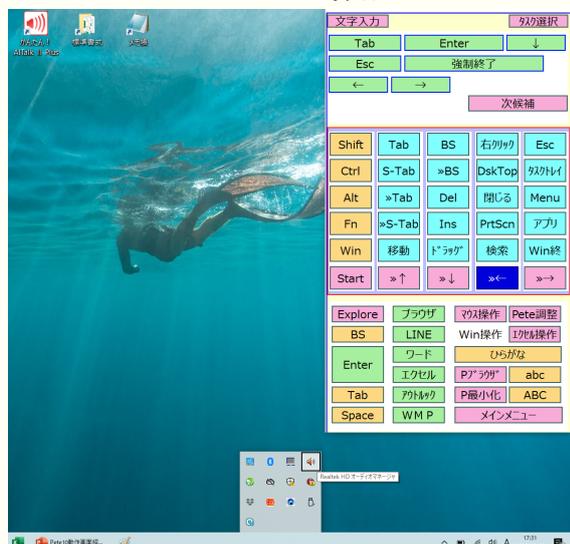
以前のPeteでは、Windows8から加えられた、いわゆる「モダンUI」系の要素を操作できないという問題がありました。

代表的なものがWindows10のスタートメニューで、以前のPeteからは操作できませんでしたが、Pete10では操作できるようになりました。

タスクトレイ等の操作

- また、Windows10のタスクトレイや、タスクトレイから呼び出す各種機能の操作（例えば、通知画面の操作）も可能になった。

タスクトレイの操作



通知領域の操作



同様に、Windows10のタスクトレイや、タスクトレイから呼び出す様々なポップアップ画面も多くはモダンUI要素でしたので、以前のPeteでは操作ができませんでしたが、これらもPete10では利用できるようになりました。

新しいPeteブラウザの提供

- Pete10は、2020年5月より、「Peteウェブコミュニティ」で提供中。



<http://www.ideafront.jp/PeteHP/>

2020 Ideafront, Inc.

Pete10は、2020年5月から、専用ウェブサイト

「Peteウェブコミュニティ」で提供しております。

価格は2400円で、ライセンス期間は2年間としています。

インストール後、2週間のお試し期間があり、すべての機能を無料でお試しくださいことができます。

ぜひ、以下のURLからお気軽にダウンロードしてお試しください。

<Pete10の使い方の紹介>

<https://www.ideafront.jp/PeteHP/manual/index.html>

<Pete10のダウンロード>

https://www.ideafront.jp/PeteHP/download/DLsite2/down_new.html

ご清聴ありがとうございました

ご清聴ありがとうございました。